

平成 2 9 年度

ファカルティ・ディベロップメント
推 進 委 員 会 活 動 報 告 書

平成 3 0 年 3 月

兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会

平成29年度ファカルティ・ディベロップメント推進委員会活動報告書

【目次】

I	平成29年度FD活動の概要	1
1.	平成29年度の活動概要	2
2.	平成29年度 中期計画・年度計画	4
3.	平成29年度の主なFD活動一覧	5
II	1年間の活動実績	6
1.	平成29年度年度計画の実施について	7
2.	「ベストクラス」の選定、公表及び授業公開	9
3.	アクティブ・ラーニング研究会の実施	19
4.	平成29年度「学生による授業評価」実施結果	27
5.	平成29年度 他大学等のFD研究会等参加状況一覧	29
6.	平成29年度 教職大学院授業改善・FD委員会 活動実績	30
III	資料	31
1.	本学におけるFDの定義について	32
2.	兵庫教育大学におけるFD推進活動への取り組み	33
3.	国立大学法人兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会規程	34
4.	授業公開の実施に関する申合せ	36
5.	本学におけるFD推進委員会と教育研究組織との関連図	37
6.	ファカルティ・ディベロップメント推進委員会委員名簿(平成29年度)	38
7.	FD推進委員会年度計画検討WG名簿	39

I 平成29年度FD活動の概要

I. 平成29年度FD活動の概要

1. 平成29年度の活動概要

本年度は、FD推進委員会が6回、年度計画検討WGが4回、学生・教職員FD交流会が3回、開催された。各回のFD推進委員会の最初の議題に注目すると、表1のようになる。本年度は、1) アクティブ・ラーニング拡充への取り組み、2) ベストクラスの選定、3) 授業評価票の改訂が、本委員会の主たる活動であったことがわかる。それぞれについて解説を加えることにしたい。

表1 FD推進委員会における最初の議題

各回	第一議題名
1回	平成29年度におけるFD活動の取り組みについて
2回	第7回兵庫教育大学アクティブ・ラーニング研究会の実施について
3回	平成28年度授業科目におけるベストクラスの選定について
4回	学生による授業評価票の改訂について
5回	学生による授業評価票の改訂について
6回	平成29年度年度計画実績評価票について

まず、第一のアクティブ・ラーニング拡充への取組についてである。平成29年4月3日開催の全学教職員会議にて、平成28年度末に実施した本学のアクティブ・ラーニングの実施状況調査の結果について報告するとともに、教員に対して、FD推進委員会が実施する研究会や授業公開に少なくとも1回は出席するようお願いし、日常的なFD活動の意識化とアクティブ・ラーニング拡充への理解を求めた。本年度においては3回のアクティブ・ラーニング研究会が開催されている。第1回目の研究会（第7回アクティブ・ラーニング研究会）では、7月24日に三重大の山田康彦教授をお迎えし「PBL導入の基本的な考え方と教員養成 PBL教育の内容と方法」というタイトルで講演をお願いした。講演内容は、PBL(Problem-Based Learning)の基盤にある考え方、三重大の実践内容と方法、三重大における大学組織としてのPBLの展開のあり方についてであった。講演に続いて、中西康雅准教授による事例作りのワークショップが開催され、3つのグループに分かれて授業の中で検討できるような事例をつくり、各グループでどのようにその事例を検討したのかを発表した。

11月1日には宮元博章准教授をファシリテータとして「探求心の火が灯る授業！」というテーマで、第8回アクティブ・ラーニング研究会「授業について語り合うワークショップ」を開催した。このワークショップは、「共感的な対話を通して、授業の楽しみや喜び、労苦や悩みを分かち合い同僚性を育むとともに、集合知を創発する学びの場として、各々の参加者が、アクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）の視点から、今後の授業を改革していくためのヴィジョンや実践のヒントを見出すことをねらいとする」ものであった。参加した教職員・学生はともに、日ごろ感じている授業についての思いを語り、探求心を引き出すために何が必要かを、そもそも探究心は引き出せるものなのか、どのような授業をしたいかについて話し合った。

12月1日には平成28年度のベストクラスに選定された初田隆教授と木下千代教授の「総合芸術表現研究」を第9回アクティブ・ラーニング研究会として授業公開していただくとともに、引き続き授業研究会を実施した。この授業は、「音を線で書く」という言葉に象徴されるように、感情や気持ちを線で表現したり、目に入ってきた形や景色を即興演奏してみることによって、領域横断的で総合的な表現活動の価値や意義を探究する授業である。授業研究会においては参観者から、芸術とは何かにかかわる活発な意見交換がなされた。

第二に、ベストクラスの選定についてである。平成 28 年度の授業を対象に、学生・教職員 FD 交流会での協議、FD 推進委員会での審議を経て、8 つのベストクラスを選定した。ベストクラスの選定にあたっては、学生による授業評価の評価項目の平均値が 3.5 以上の授業科目を対象として、授業規模、授業形態、履修年次、科目区分を考慮に入れ、学部、修士、専門職学位課程の授業の中から、自由記述をもとに 10 程度に絞り込むことになる。その後、授業担当者、受講学生へ授業についての聞き取り調査を行い、最終的に選定されたベストクラスが、10 頁の表である。本年度から、選定されたベストクラスを「よい授業」の指針とするため授業公開の対象とすることとした。平成 27 年度ベストクラスとして選定された前期開講科目「教育課程論」「心理統計法演習(昼間クラス)」「特色あるカリキュラムづくりの理論と実際 A」「児童生徒を活かす学級経営の実践演習 A」と平成 28 年度ベストクラスとして選定された後期開講科目「初等社会科教育法(C クラス)」「総合芸術表現研究(昼間クラス)」「教員のための人権教育の理論と方法 B(昼間クラス)」「円滑な学級経営のための力量形成(昼間クラス)」の 8 科目について授業の公開をお願いした。

第三は、年度計画との関連で実施した授業評価票の改訂である。これまで、学部・修士課程と専門職学位課程では異なる授業評価票を用いて、学生による授業評価を行っていた。後に詳しく説明するように、両方を統合して、同一の評価票で持って授業評価を行うことを企図し授業評価票の改訂を行った。そのために、FD 推進委員会内部に、年度計画検討ワーキング・グループを設置し、ここで検討した内容を FD 推進委員会で協議し、さらにワーキング・グループにおいて検討し直すという方法をとった。ワーキング・グループは計 4 回開催されている。授業評価票の項目は、本学での授業改善の指針となりえ、教職員と受講者である学生とが共有すべきものとなる。

次年度以降の FD 活動の取組みとして、2 つの課題を指摘しておきたい。一つは、他大学の FD 活動に積極的に参加し、他大学の情報を収集することである。本学では、今後、教育課程の改訂に伴い、アクティブ・ラーニングを学部段階でも拡大し、学生がアクティブ・ラーニングについての考え方や指導法を身につけるような授業が組織的に展開されていくことになるであろう。そのため、学内での授業公開やアクティブ・ラーニング研究会に少なくとも 1 回は参加していただくこと、学外の FD 研究会への参加も FD 活動への参加としてカウントし、そこで得た知見を学内で共有できるようにすることが望ましい。そうすることが、本学の FD 活動の活性化につながると考える。二つは、FD 活動の意義についての再確認である。本学の FD 活動の定義には、「本学のミッション及びビジョンを実現するために(中略)教育の質保証をめざすあらゆる取り組み」を指すとある。教育の質保証によって、学生たちが、何を獲得し何を獲得できていないのか実状を診断し、足りない点を補い優れた点を伸ばすために、学生の学びの履歴を把握する教員養成スタンダードと連動させながら、組織的な FD 活動を行っていくことが必要になると考えている。

2. 平成29年度 中期計画・年度計画

平成29年度のファカルティ・ディベロップメント推進委員会に係る中期計画及び年度計画は次のとおりである。

中期計画12	教育活動に対する評価結果を教育の質の向上や改善に結びつけるため、ファカルティ・ディベロップメント推進委員会を中心とした組織的取組により、ベストクラスの選定、教員養成スタンダードのカリキュラムマップの改善等、全学的なファカルティ・ディベロップメント活動を推進する。
年度計画12	28年度の調査結果等に基づき、全学的なFD活動の推進を強化するため、全学で統一した授業評価方法を開発する。

(実施組織：FD推進委員会)

中期計画02	学生の主体的な学修を組織的に推進するため、アクティブ・ラーニング等の授業形態や授業方法を拡充し、併せて、学生に能動的な学習指導法、及びそれを通して育成すべき資質・能力とは何かを修得させる。また、学修時間の確保、シラバスの充実及び学修成果の可視化に取り組む。
中期計画05	学生の主体的な学修を組織的に推進するため、アクティブ・ラーニング等の授業形態や授業方法を拡充し、併せて、学生に能動的な学習指導法、及びそれを通して育成すべき資質・能力とは何かを修得させる。また、教員養成スタンダード（大学院）に示された資質・能力の観点から授業内容・方法を見直し、シラバス改善、学修成果の可視化に取り組む。
年度計画02、05	「アクティブ・ラーニングに関する授業実態調査」の集計結果等を学内で共有するとともに、28年度にとりまとめたアクティブ・ラーニング等の拡充策に基づき、PBL等の研究会を実施する。また、実施した拡充策について、アンケートなどにより、その効果を検証する。

(実施組織：学部教務委員会(02)、大学院教務委員会(05) FD推進委員会(02, 05))

中期計画03	厳格な成績評価を行うため評価方法を見直すとともに、学生による授業評価の結果の分析を行い、授業改善の具体的指針を明確化する。また、卒業認定については、新入教員としての資質や能力を着実に育成する観点から、ディプロマ・ポリシーに従って、卒業判定基準に基づき厳密に行う。
中期計画06	厳格な成績評価を行うため評価方法を見直すとともに、学生による授業評価の結果と教員養成スタンダード（大学院）の観点から、授業改善の具体的指針を明確化する。また、修了認定については、教育に関連する質の高い人材を育成する観点から、ディプロマ・ポリシーに従って見直し、厳格化した修了判定基準に基づき厳密に行う。
年度計画 03、06	28年度に作成した授業改善の具体的指針案を明確化し、各教員に改善を促す。

(実施組織：学部教務委員会(03)、大学院教務委員会(06) FD推進委員会(03, 06))

3. 平成29年度の主なFD活動一覧

日 付	事 項
平成29年 4月26日	ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（第1回） 年度計画検討WG設置
平成29年 5月25日	第1回学生・教職員FD活動交流会（ベストクラス選定作業）
平成29年 5月27日	関西地区FD連絡協議会第10回総会出席
平成29年 6月 2日 ～7月 5日	ベストクラス選定科目の授業公開（前期）
平成29年 6月 6日	ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（第2回）
平成29年 7月14日	第2回学生・教職員FD活動交流会（授業評価項目の意見聴取）
平成29年 7月24日	第7回アクティブ・ラーニング研究会 「PBL(Problem-Based Learning)に関する研究会」
平成29年 9月14日	第3回学生・教職員FD活動交流会（ベストクラス候補科目を選定）
平成29年 9月28日	ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（第3回）
平成29年 7月 3日 ～前期科目終了日	前期「学生による授業評価」実施
平成29年10月	平成28年度授業科目における「ベストクラス」を公表（大学Webサイト）
平成29年11月 1日	第8回アクティブ・ラーニング研究会 「授業について語り合うワークショップ」
平成29年11月 2日 ～12月11日	ベストクラス選定科目の授業公開（後期）
平成29年11月 9日	ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（第4回）
平成29年12月 1日	第9回アクティブ・ラーニング研究会 「ベストクラスのうちの1科目を授業公開及び授業研究会」
平成30年 1月17日	ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（第5回）
平成30年 1月 9日 ～後期科目終了日	後期「学生による授業評価」実施
平成30年 2月 8日	京都教育大学院生とのFD交流会実施
平成30年 3月19日	ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（第6回）

Ⅱ 1年間の活動実績

Ⅱ. 1 年間の活動実績

1. 平成 29 年度の年度計画の実施について

本年度 F D 推進委員会（学務課）にかかわる年度計画は、年度計画 12、年度計画 02、05、年度計画 03、06 である。年度計画 02、05 のアクティブ・ラーニングの拡充策として、ベストクラスの授業公開、授業について語り合うワークショップの開催、PBL 等の研究会の開催があり、これらについては、本年度の F D 活動の概要において説明を加えたので省略する。ここでは年度計画 12 について詳しく解説することにしたい。年度計画 12 にかかわる授業評価票の改訂は、自ずと年度計画 03、06 の授業改善の具体的指針案を明確にするにつながる。なぜなら、この度の授業評価票の改訂は、平成 28 年度になされた学生による授業評価の分析にもとづく「よい授業とは何か」から演繹された授業改善への具体的指針を反映させることになるからである。

年度計画 12 を実施するにあたり、年度計画検討ワーキング・グループ（以下、WG）を設置した。メンバーは、須田康之、山中一英、菅井三実、掛川淳一、筒井茂喜、藤木裕一の 6 名である。第 1 回開催(平成 29 年 6 月 14 日)の WG では、「【年度計画 12】28 年度の調査結果に基づき、全学的な F D 活動を強化するための、全学で統一した授業評価方法を開発する。【年度計画 3、年度計画 6】28 年度に作成した授業改善の具体的指針案を明確化し、各教員に改善を促す。」の検討課題について確認し、評価項目を改訂するにあたり学生からの意見も募ることとした。平成 29 年 7 月 14 日に第 2 回学生・教職員 F D 交流会を開催した。交流会への学生の参加は 7 名、教職員の参加は 8 名であった。この中で、「授業評価の項目は、大学が目指す「よい授業」の指針であるべきである」や、「ベストクラスは学生と教員が一体となって作り上げている授業を選定しているので、学生自身のことでも尋ねてはどうか」という意見が出された。学生・教職員 F D 交流会で出された意見をふまえ、第 2 回 WG（平成 29 年 8 月 1 日）を開催した。ここでは、16 項目の評価項目が提示されたが、授業を構造的に捉え評価項目の検討に入るべきではないかという意見がだされ、再度検討することとなった。2011 年度改訂作業にあたった際の評価項目の枠組み、現行の学部・修士課程の授業評価項目、教職大学院授業評価項目、2016 年度に実施した「よい授業」の分析結果をふまえ、須田と山中が原案を作成し、第 3 回 WG（平成 29 年 9 月 14 日）に臨んだ。ここでは、質問項目に類似したものがあることや、文言を明確にすること、いくつかの項目については回答する学生を限定すべきではないかという意見が出された。これらの意見を集約し、第 3 回 F D 推進委員会（平成 29 年 9 月 28 日）にて評価項目について審議し、その結果 18 の項目からなる評価項目の原案を、各専攻に示し意見を求めることとした。各専攻からは、多くの貴重な意見が寄せられた。これを踏まえ、第 4 回 F D 推進委員会（平成 29 年 11 月 9 日）にて授業評価項目について協議し、項目数を 15 項目とし、項目の順序に配慮し整えることとした。第 4 回 WG（平成 29 年 12 月 21 日）では、15 項目からなる授業評価票の最終案を協議し、これを第 5 回 F D 推進委員会に提案することとした。第 5 回 F D 推進委員会（平成 30 年 1 月 17 日）にて、「学生による授業評価票」の改訂案について審議し、これを了承した。これらをふまえて、平成 30 年 2 月 6 日開催の第 11 回研究科・学部教授会の教授会にて、「「学生による授業評価」に係る評価票の改訂

について」を報告事項としてあげ、平成 30 年度から新しい授業評価票を用いて、専門職学位課程も含めた全授業科目を対象として全学で統一した授業評価を実施する旨、説明した。

新しい授業評価票の評価項目は、下記に示す通りである。項目の①～⑨までは教員の授業に対する評価項目であり、項目⑩～⑫は学生自身が自己評価を行う項目である。ベストクラスの趣旨が教員と学生がともに作り上げる授業としているため、学生による自己評価項目を入れた点に今回の改訂の特徴がある。⑬と⑭は該当科目の受講生のみ回答し、⑮では毎回の授業の予習・復習にかけた時間をきいている。回答形式は、いずれの項目も 4 件法で順序尺度とした。自由記述欄は、授業評価票の裏面に設けることとした。

H30. 1. 17

F D 推進委員会決定

「学生による授業評価」評価項目の改訂

- ① この授業は、目的が明確であり、それにふさわしい内容だった。
- ② 授業計画（シラバス）は学習する上で役立った。
- ③ 成績評価の基準・手続きが示された。
- ④ 教員の説明は、わかりやすかった。
- ⑤ テキスト・プリント等、教材・教具は役立った。
- ⑥ 教員は、学生の参加をうながすため、適切な授業方法を工夫していた。
- ⑦ 教員は、学生が質問や意見を述べられるよう配慮していた。
- ⑧ 教員の熱意や丁寧な対応が感じられた。
- ⑨ 人権、安全への配慮がなされていた。
- ⑩ 私は、授業を構成する一員であるという自覚をもって授業に臨んだ。
- ⑪ 私は、この授業からものの見方や考え方について知的刺激を受けた。
- ⑫ 私は、事前準備をして授業に臨み、授業内容を振り返り、自ら理解を深める努力をした。
- ⑬ （※複数教員担当科目のみ対象）
授業の目的、内容、方法について教員間で連携がなされていた。
- ⑭ （※大学院授業科目のみ対象）
「理論と実践の融合」について配慮がなされていた。
- ⑮ 毎回の授業の予習・復習にかけた時間は平均どれくらいですか。
4：3 時間以上 3：2 時間程度 2：1 時間程度 1：30 分未満

①～⑭の回答欄

4：そのとおり 3：ほぼそのとおり 2：あまりそうではない 1：そうではない

2. 「ベストクラス」の選定、公表及び授業公開

平成 27 年度から選考を開始した「ベストクラス」について、本年度は、平成 28 年度開講科目の「ベストクラス」として 8 つの授業科目を選定した。

●「ベストクラス」という概念について

「ベストティーチャー賞」なら、すでにいくつもの大学が制度として導入しているが、本学は、「ベストティーチャー」でも「賞」でもない、「ベストクラス」である。なぜ「ベストティーチャー」でないのか、そして、なぜ「賞」でないのか。ここに、「ベストクラス」という概念に込められたユニークな企図がある。

なぜ「ベストティーチャー」でないのか。授業は教員の努力だけでよいものにはならない。教員のみならず、学生の高い参加意識があってはじめてよくなる。そうだとしたら、授業を担当する教員にのみ焦点があてられる「ベストティーチャー」という表現はふさわしくない。

なぜ「賞」でないのか。「ベストクラス」は、優れた授業のモデルや規準を定め、それにあてはまるものを選ぶのではない。授業にはそれぞれ異なった意図やねらいがあるはずであり、それを一つの規準で評価することは授業の画一化を招きかねない。優れた授業とはどのようなものかという問いを失った瞬間に、優れた授業の多様性が失われる危険性がある。このように考えたとき、「賞」はなじまない。

●「ベストクラス」の選定

「ベストクラス」の選定にあたっては、学生と教職員が FD について公式に協議する「学生・教職員 FD 活動交流会」が大きな役割を果たしている。

選定の流れは、次の通りである。まず、前年度の授業評価結果の自由記述を検討して候補となる授業科目を選ぶ。つぎに、「学生・教職員 FD 活動交流会」のメンバーが、授業担当教員と受講者の双方にインタビューを行い、選定理由書を作成する。そして、それを FD 推進委員会で議論して最終的に選定するのである。

この過程では、学生と教職員が協働して作業にあたる。よい授業とはなにか、率直な意見交換が行われ、学生にとっても教職員にとっても、授業について思考する刺激的で貴重な機会となっている。

●「ベストクラス」の目的

本学の教育の質の向上のため、よい授業を教職員と学生が共有することにある。選ばれた授業科目のそれぞれにある「持ち味」を共有していただければ幸いである。

●ベストクラス選定科目の授業公開

本年度は、よい授業を教員間で共有することを目的として、ベストクラス選定科目について、前期は 27 年度選定科目から 4 科目、後期は 28 年度選定科目から 4 科目の授業公開を行った。

また、後期の 1 科目については、第 9 回アクティブ・ラーニング研究会として、授業公開の後、授業研究会を行い参加者で意見交換を行った。

ベストクラスの選定について

1. ベストクラス選定の目的

ベストクラスは、本学の教育の質の向上のために、よい授業を教職員と学生が共有することを目的に選定されるものである。

2. 選定手続き

①選定は、前年度授業評価結果を参考にし、学生・教職員 F D 活動交流会での検討に基づいて、F D 推進委員会において行われる。

②授業評価の高評価授業科目を対象とし、原則として評価項目の平均値が 3.5 以上のものとする。ただし、選考基準平均値は、評価結果を考慮して設定できるものとする。

③高評価自由記述を検討して、よい授業を 10 程度に絞り込む。その際、授業規模、授業形態、履修年次、科目区分を考慮に入れる。

- ・学校教育学部 81 人以上，80～31 人，30 人以下
- 修士課程 31 人以上，30 人以下
- 専門職学位課程 共通基礎科目，専門科目
- ・講義，演習，実験など

④候補とされた授業の担当教員と受講者（授業担当教員の推薦による）に学生・教職員 F D 活動交流会がインタビューを行い、検討資料とする。

- ・授業者に対しては、授業の意図、当該授業での授業意図の共有度、学生の参画度、当該授業の良さと課題など
- ・受講者に対しては、うけとった授業の意図、参画度、知的刺激、知識の創造など

3. 選定された授業科目の公表方法等

①ベストクラスとして冊子、本学 W e b サイトで紹介する。

内容は

- ・授業名（履修年次，科目区分），開講時期（時限），教室環境，受講者数など
- ・選定理由
- ・授業者の意図と授業の振り返り，授業での工夫点，今後に向けた改善点
- ・受講者の参画度インタビュー，この授業のオススメポイント

②アクティブ・ラーニング研究会での公開授業の候補とする。

以上

ベストクラス選定科目（平成27年度開講科目）授業公開一覧表（前期）

課 程	授業科目名	担当教員	履修 年次	科目区分	平成29年度				参観数
					受講者数 (人)	教 室	開講状況	授業公開日時	
1 大学院 (専門職)	児童生徒を活かす学級経営の実践 演習 A（昼間クラス）	山中 一英	1	共通基礎科目	21	共通講義棟 302	前期 金 2	6月2日（金） 2限 (10:40~12:10)	15
2 学 部	教育課程論	伊藤 博之	2	教職キャリア科目群 教職支援科目	177	子午線ホール	前期 月 3	6月5日（月） 3限 (13:10~14:40)	6
3 大学院 (専門職)	特色あるカリキュラムづくりの理 論と実際 A（昼間クラス）	關 浩和	1	共通基礎科目	23	共通講義棟 304	前期 月 2	7月3日（月） 2限 (10:40~12:10)	12
4 大学院 (修士)	心理統計研究法演習（昼間クラ ス）	秋光 恵子	1	専門科目 人間発達教育専攻／専門分野 （学校心理・学校健康教育・ 発達支援コース）	15	共通講義棟 102	前期 水 2	7月5日（水） 2限 (10:40~12:10)	7

ベストクラス選定科目（平成28年度開講科目）授業公開一覧表（後期）

課程	授業科目	担当教員 下線は非常勤講師	履修 年次	科目区分	平成29年度				参観者数
					受講者数	教室	開講状況	授業公開日時	
1 学部	初等社会科教育法（Cクラス）	大西 慎也	2	教育実践・リフレクション科目群／ 初等教科指導法科目	55	共通講義棟 111	後期 木4	11/2（木）4限目 （14:50～16:20）	10
2 大学院 （専門職）	円滑な学級経営のための力量形成 （昼間クラス）	山中 一英 高尾一二三	1	専門科目／生徒指導実践開発コース	10	共通講義棟 307	後期 木2	11/16（木）2限目 （10:40～12:10）	6
3 大学院 （専門職）	教員のための人権教育の理論と方法B （昼間クラス）	山内 敏男 和田 幸司 岩本 剛	1	共通基礎科目	44	共通講義棟 304	後期 月2 集中	12/11（月）2限目 （10:40～12:10）	20
※4 大学院 （修士）	総合芸術表現研究 （昼間クラス）	初田 隆 木下 千代	1	専門科目 教科教育実践開発専攻／芸術系教育 コース	18	芸術棟 303	後期 金1	12/1（金）1限目 （10:40～12:10）	23

【備考】※印の科目は、第9回アクティブ・ラーニング研究会（授業公開及び授業研究会）として実施。

ベストクラス選定科目の授業公開アンケート

(平成29年度 前期)

出席者について	第1回(6/2)	第2回(6/5)	第3回(7/3)	第4回(7/5)
教員	11	4	10	5
事務職員	4	2	2	2
回答者について	第1回(6/2)	第2回(6/5)	第3回(7/3)	第4回(7/5)
教員	9	2	10	3
事務職員	0	0	0	0
公開授業について	第1回(6/2)	第2回(6/5)	第3回(7/3)	第4回(7/5)
大変参考になった	6	2	4	1
参考になった	2	0	3	2
あまり参考にならなか	0	0	1	0
参考にならなかった	0	0	0	0

上記回答の理由、その他意見

第1回	・なかなか、他の先生の講義をうかがう機会がないので、楽しく受講できました。先生が「果敢」に挑戦しておられる姿に共感しました。(似たような状況を経験することも多いので)。とても勇気づけられました。ありがとうございました。受講生の中には、目標ということにこだわっておられる方も多かったですね。流通するコトバにしてしまうのもありかなと思いました。
	・後半部の講義が本授業の真骨頂、構築主義自体を相対化し得る口調になっていたかと思います。これを、院生さんにどうリフレクションさせて、実践知を深化させていくか、授業の流れ(展開)のアイデアを想起させていただきました。ありがとうございました。
	・学生と対話的である。(学生の疑問を大事にしている。受け付けている。)理論と具体(実践)を循環させている。
	・「現場で多様な生徒を相手に様々な指導方法を用いてきたか、全てに均等となるオールマイティな方法はない」と実践している存在と現職教員を捉える必要性、そのような現職教員が求めているものは何か、ということを変えて考え直す時間となりました。「学び」とは何かを、受講生とともに考察しようとする先生の構えに気づかされることが多くありました。
	・語りが豊かで、具体と抽象の双方からの行ききがあった。受講生と授業を共有し、理解の程度を確認しながら、すすめていた。
	・ありがとうございました。いじめの臨床研究をしている関係で、社会構成主義の考え方、いじめの発生機序について、知見が広がった感じです。私は主にvulnerabilityの教育の補完や、SFA(Solution Focused Approach)の”共同授業””共同作業”に立つ教育と、同じ視点に立つものとして、整理できました。今後も楽しみです。是非またお聞かせ下さい。
	・特別な活動や演習を取り入れているわけではありませんでしたが、話の内容が面白かったです。たくさんの資料が配られて、理解を深めることができる点もよかったですと思います。
第2回	・共通科目で社会(的)構成主義をどのように学習されているかの一端を知ることができた。この授業がどのように社会(的)構成主義を練り込んだ授業デザインがされているか、その到達点と課題についての自己評価をおききたいです。
	・この人数で、ふり返り票に目を通し、コメントを入れておられるなんて、本当にすごいです。私も(他大学で)同じ科目を持つことがあるので、カリキュラム・内容etcも勉強になりました。授業構成(ふり返り、視聴覚教材、説明、グループディスカッション、説明、まとめ)も参考になりました。
	・授業の導入部分の深呼吸や、授業中に教員と学生の間を通った学生への対応など、授業内容のみではなく、授業空間をより高度なものにしようとする〇〇先生の教授法から多くのことを学ばせていただいたからです。ありがとうございました。
	・受講者のプレゼンテーションに対して、事前にプレゼンテーションの視点を明確化していた点。・授業の中で、対話的な場面がしっかり設定されていた。・指導者(授業者)の統括の視点
	・自分以外の授業に参加する機会がそんなにないので、貴重な体験であった。
	・学生間のディスカッションの促進場面が入る授業がみられたらもっと良かった(今回は発表だったので仕方ない)。
	・今日の授業に至るまでに、学生は準備に時間をかけてきたと思われる。授業外における準備、ふりかえりをどう取り入れていくかについて考えていきたい。

第3回	・各学校が特色あるカリキュラムを作ること求められ、色々努力しておられることがわかりました。その内容がシェアされている点がとてもよいと思いました。各先生方の発表はとても面白かったのですが、参加しておられる院生さんがどのようなことを考えたのかを知りたくなりました。
	・カリキュラム・マネジメントの視点から受講生が所属する学科の実態をふまえて、自らの授業実践の位置づけをより向上させることができるのかを自己認識できる点が良いのではと思った。
	・3つの発表のいずれも質の高い発表であった。どの学校も特色のある学校経営がなされていると思った。 ・それぞれの発表に対しての、先生からの質問あるいはコメントが上質で、発表のポイントを確認出来るものであった。
	・各自の発表内容も大変すぐれていたが、加えて、先生のコメントがとてもポイントをついて良かった。 ・先生のパソコンでの補助資料もとても刺激的でよかった。
	・院生の時受講させていただいた授業でしたがやはりお手本の授業（カリキュラム）です。発表者が手際よく自校の特色を整理し、プレゼンをしているということは、その背景（手立て）として、分析の方法を内容、結果の示し方についてきちんと押さえられているからになります。院生の学びの質をいかに向上させる手立てをを探していくかが私にとっての課題であると内省させていただきました。
第4回	・所属コースとはまた異なり、他のコースの授業を参観できたことは私自身にとっても学びとなりました。教員の話提供のタイミング、演習の長所でもある学生主体の展開はぜひ参考とさせていただきたいです。（「心理統計研究法」との関連について知りたいと思いました）

授業公開に関してその他意見等	
第1回	・こういう機会がふつうにあればよいと思います。もっとも、ついついおっくうになってしまう、自分もいますが・・・
	・「教職大学院化」に向けて、各教科での授業構築等コンセプトの共有化のためにも、より強制力を持たせた参加があってもよいかもしれません。
	・公開授業後に、その講義の担当教員との事後検討会があればどうだろうと感じました。
第2回	・個人的に聴講をお願いすることもあります。こうして公的な場で授業を見させていただけると、参加しやすかったです。ありがとうございました。
	・今回初めて参加させていただきましたが、大変有意義な時間を過ごさせていただきました。授業を担当される先生や受講している学生さんには少し負担となり、FDを準備される教職員の方々は大変かと思いますが、今後とも開講されることはとても意義深いと思います。本日はありがとうございました。
第3回	・授業公開の機会があるのは望ましい。自身の授業のリフレクションに資する。
	・学生がディスカッションに参加できる授業が教職大学院には求められる。今日の授業（20名程度）であれば参加できるが、今後学生増の時代に入るとどのような工夫が必要になるか、こういう課題に対するヒントが得られるような授業公開が求められるであろう。（学生が受け身の授業にならないようにするにはどうしたらよいのか）
	・同じ大学にいながらなかなか他の先生方の授業をみさせていただく機会はそれほどありません。貴重な機会を作ってくださいありがとうございました。
	・このような機会をできるだけ多く設定できたらよいと思う。・本日は後ろで大学の教員が見学していることを（ベストクラスとして）しらせたほうがよかったのでは？
	・今回は上手く時間がとれて全てではありませんでしたが、参観できて勉強になりました。機会を作ってください有難うございました。
第4回	・よい授業をアポなしで見学させていただけるのがとてもありがたいと思います。
	・新任等の教員には“大学院”の授業のイメージは自身の経験に基づくものが多いのではないのでしょうか？だからこそ、学生から評価の高い授業を参観することで学べるものが多いと思います。（特に、今日のように教員、学生間の雰囲気はまだできていない初回以降を希望したい）

ベストクラス選定科目の授業公開アンケート

(平成29年度 後期)

出席者について	第1回 (11/2)	第2回 (11/16)	第3回 (12/11)
教員	8	4	18
事務職員	2	2	2

回答者について	第1回 (11/2)	第2回 (11/16)	第3回 (12/11)
教員	8	4	14
事務職員	0	0	0

公開授業について	第1回 (11/2)	第2回 (11/16)	第3回 (12/11)
大変参考になった	4	4	5
参考になった	3	0	8
あまり参考にならなかった	1	0	0
参考にならなかった	0	0	0

上記回答の理由、その他意見

第1回	小学校の社会科の授業をみせていただき、どのようなやりとりがなされ、具体的に思考している様子がわかった。ワークシートに記述することで、授業を分析的に捉えることができました。
	授業の導入方法 学生のコメント（アンケート、振り返りシート）の活用
	学生達の授業観はほとんどの場合、唯一、一つのもの（自己の受けてきた教育の場合が多い）に固執していると考えられます。そうした現状を改善する手だてとして、「批判」させることを通して「相対化」がはかられているという点で非常に意義がある授業であったかと思えます。
	授業でみせた「社会科授業のVTR」も参考になったし、実際の本時の授業も参考になった。DVDが45分丸ごとで長く、集中してみるのがしんどかった。（授業のねらい上、仕方がないと思いますが…）様々な情報から、意見を引き出し、考えさせながら進める授業（DVD）は参考になった。（探究型の授業）学生に考えさせる授業であった。
	授業DVD視聴の際も机間巡視し、しんどい学生を起こしていた。
	学生の意見が出てくる次の授業の方が、大学教員には参考になったかもしれない。今日は小学校の社会科の授業を担当するとしたら、大変参考になるだろう。
第2回	肝腎のビデオの中の図がよく分からなかった。これは仕方がないが、音が割れて聞き取りにくい。ビデオの中の黒板に何が書いているか判らない。
	すいません、途中入場なので全体像がつかめませんでした。（ビデオをずっと見ているだけだった←何を目指して視させているか説明を聞けてないため）シラバスやこの授業のねらいなどの参観者向けの補助資料があると理解が深まると思います。
	教職大学院における、授業のイメージがみえたように思いました。ただ、実務家教員から与えられる「事例」の強さを感じました。理論+実践という「知」の育みが教職大学院では重要だと。国語コースの実務家教員不在が不安です。
	とても刺激的な議論が展開されていたと思います。
第2回	ワールドカフェ的な授業形態の可能性を感じました。これまでワールドカフェは、解釈コードの増殖には効果があると思っていました。一方、解釈コードの多元化（又は、枠組みの再構成にどのように役立つのか疑問でしたが、シェアリングに、研究者教員が介入することによってダブルループ化のきっかけを作ることが分かりました。〔認知的不協和は、私の課題意識である学習課題の発見と関係し、バランス議論は、なつかしい話でした。（〇〇先生に習いました。）〕研究者教員の介入の仕方が重要ですね。
	グループ発表から「いじめが自分を守る手段である・「大人になれば自分の欠点を認められる」など小文字の理論が多くでてきていたと思います。そのような小文字議論（解釈？仮説？）を受講者に理論である、又はmindset？だとメタ認知させる工夫はされているのでしょうか？そういう必要はないのでしょうか？
	研究者の介入に関して、気をつけていらっしゃることはあるのでしょうか。
	スコラが近現代のスクールになったことの矛盾や限界について、考えさせられました。
第2回	学習者の意欲を高める適切な話題が提示されているため、自分ごととして協議に参加できている。自分が授業においても学習材の選定が重要だと改めて気付いた。また指導者の働きかけがすばらしく、集団と個人の両方の思考を高めていた。指導者の問いや説明等が参考になった。複数指導者体勢のよさも見取ることができた。

第3回	受講生が、課題に即して、真剣に取り組んでいる様子がよくわかりました。
	学生が事例について調べてきたことを発表し、それをもとにして学生同士が議論するという方法が取り入れられていたのが勉強になりました。
	授業のすすめ方(発表、ワークショップ、などのくみこみ方)が参考になった。 発表の質の高さから、これまでの授業の質の高さがうかがえました。
	以下の4点がとても参考になりました。 教員から紹介された題材から【題材えらびの足場かけ】学生自身がテーマを選び、自らの実習での経験も加味しながら吟味させていること。 分析評価観点に一貫性を持たせることで、大切なことは何かを学生自身が意識して理解できること。 学生が限られた時間の中で主張を整理したり、ワードのコメント機能をうまく活用したりして発表・表現のテクニックを身につけていること。 改善という活動が、学生の動機向けを高め、深く理解することを促していること。 これらは担当されている先生方の指導の工夫によるものだと感じています。
	各班の発表を共通の視点(分析評価シート)を持ちながら、聞くことができるのはよいと思いました。ワークショップでのふせんをはりあう(コメントを伝える)、それに対するグループでのディスカッションは理解をふかめるために効果があると思いました。
	授業の進め方も板書しており、大変スムーズに進められていると思った。発表者のところにはりにいく方法はとてもよいと思った。(マナボードはよかった) ワークショップでの3名の担当教員のアドバイス・指導が大切なポイントだったと思った。 授業に集中している態度はとてもよかったが、遅刻する数名の学生がいることは大変気になった。
	具体的な人権教育の学習事例を通して、その問題点や課題を院生が自ら考えていた点は良かった。学ぼうは学習の学び合いを促進する上で有効的だと思いました。 ⑧分析評価シートの観点が参考になった。やはり、パワポで発表してもらった方が良いですね。プレゼン色々。広い、広い、考える幅は広い。これが良いのか！
	発表活動について、どのようなガイドラインでレジュメを作成して発表しているのかを資料等で示してほしいです。学生側に公開授業についてのアナウンスや準備を徹底したのかが少し疑問です。授業へのとりくみ方に学生の間で差があるように感じました。 もっと真剣に、苦しみながら課題に向きあっても良いのではないかと思います。
	講義形式だと1人で受け持つ受講者数ですが、班活動に3人の教員が適宜サポートしているところが、手厚いと思いました。ボードやふせんの使い方、参考にしたいと思いました。最後の教員によるコメントが力をもっていると感じました。
	ワークショップのやり方は参考になった。ただ「人権教育の理論と方法」とあるのに、理論的な深まりは感じられなかった。(例)ホームレスの事例を扱って何を感じさせ、考えさせるかという視点がわからない。
	「略案」を資料と一緒に配っていること。非常勤の先生と一緒に授業に入っていること。発表内容について受講生に評価(ワークショップ)させていること。

授業公開に関してその他意見等	
第1回	教室環境の改善（プロジェクターの有無，黒板の高さ，照明スイッチの位置）
	いろいろなタイプの授業を年間計画で公開したらよいと思う。
	他の授業を見る機会はなかなかないので，貴重です。
	学生にとって直接役立つ授業と大学教員が見て役立つ授業とは同一ではないかもしれない。
	何のためにするのか，意味がないとは言はないが，大学の授業は，それぞれ独自性が強いので，授業に直接参考にするのは難かしい。本授業自体は，いろいろ参考になりました。
第2回	○参加者が少なく，固定化していることが心配，残念です。
	○シラバスやこの授業のねらいなどの参観者向けの補助資料があると理解が深まると思います。
	ありがとうございました。授業を日常的に見ることができるのは，授業力を向上させる上で，非常に大切であると痛感できた。自分の授業を見直したい。学習者相互に意見交流することの意義に加え，指導者からの理論を学ぶことの意義が，どちらも見て取れたのがよかった。発言のない学習者がいるのはやや気になった。
	授業に参加させていただきありがとうございました。クラスを知を構築する共同体と位置づけられている点からもベストクラスとしてふさわしいと感じました。大学院の授業の1つの典型的な形だと思いました。
	やはり人の授業をみることは大切だと感じました。
第3回	F D活動としてとてもよいと思いました。
	よいとりくみだと思います。
	学生自身が満足できる授業のエッセンスを学ぶ上で，学生から評価の高い授業を私たちが参観することは，とても重要だと感じています。このような場を提供してくださいました先生方に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。
	「ベストクラス」を公開して，1回は見るように教員に促したことはある程度，効果があったと思う。いつもより多くの方，メンバーも変わっていてよかったが，教室のスペースも考えていく必要がある（あるいは，上限を決めるとか，先着順でとか）が必要になってくるだろう。
	単発の授業をみるだけでは十分に授業のねらいが理解できない。
	「授業改善」ってどういうことなんだろう。→人権教育の改善か，授業の改善か？⇒授業で深まったのか？収束しなくてもいいけれど・・・
	ベストクラスは教員と学生が共に作りあげていくものと定義していたと思いますが，学生がいれかわることにより，昨年のベストクラスが今年もベストクラスになるとは限らないと思います。そう考えると，昨年のベストクラスの授業をそのまま参観することに意味があるのかどうか，少し疑問に感じました。
	公開される授業が講義形式であるか，グループワーク等の演習系のものであるかが明示してあると選択する際の参考になります。

3. アクティブ・ラーニング研究会の実施

■第7回アクティブ・ラーニング研究会

=PBL(Problem-Based Learning)研究会=

日時：平成29年7月24日（月）13:10～15:40

場所：総合研究棟3階大会議室

内容：

①講演 「PBL導入の基本的な考え方と教員養成 PBL教育の内容と方法」

講師：三重大学教育学部・地域人材教育開発機構 教授 山田康彦氏

②ワークショップ

講師：三重大学教育学部・地域人材教育開発機構 准教授 中西康雅氏

参加者：39名

■第8回アクティブ・ラーニング研究会

=授業について語り合うワークショップ=

日時：平成29年11月1日（水）14:50～16:20

場所：附属図書館PAO

内容：

テーマ 「探究心の火がともる授業！」

ファシリテータ 宮元博章准教授

ワールド・カフェ形式による対話型ワークショップ

参加者：17名

■第9回アクティブ・ラーニング研究会

=ベストクラス選定科目の授業公開及び授業研究会=

日時：平成29年12月1日（金）9:00-12:10

場所：芸術棟303号室

内容：

①公開授業（授業者：初田隆教授、木下千代教授）

9:00-10:30「総合芸術表現研究（昼間クラス）」

*大学院修士課程開講、履修者18名

②授業研究会（司会進行：菅井三実教授）

10:40-12:10 全体討論（授業の感想等）

参加者：23名

第7回兵庫教育大学アクティブ・ラーニング研究会 アンケート（リアクションシート）集計結果

1. アンケート回答者数

学生 9名 教員 12名 事務職員 3名 合計 24名

【参考：アクティブ・ラーニング研究会への参加者数】

学 生 14名

教 員 19名

事務職員 6名

合計 39名

2. 講演について

	学 生	教 員	事務職員
①大変参考になった	6人	7人	3人
②参考になった	2人	5人	0人
③あまり参考にならなかった	0人	0人	0人
④参考にならなかった	0人	0人	0人

上記回答理由、その他意見等 （原文ママ）

- ①小学校、中学校で進めていく「主体的・対話的深い学び」に対しての参考になりました。
- ②PBL が質の高い講義になる切り口の一つであることは分かりました。兵庫教育大学でも PBL を活用して、学生にとってよりよい講義になれば幸いです。
- ③PBL について、あまり知らなかったが、学生として授業を受ける側で、PBL を実践されている授業では自分が活発、意欲的な姿勢で講義にのぞめ、印象が強く、実際にいかせる力として身につく感覚がある。自分も現場にもどったら、PBL をしてみたい。
- ④参加されておられた先生方の質問によってより思考が深まったように思います。
PBL のとりくみは教員養成と教職研修とをつなぐよいとりくみになるように思います。
- ⑤PBL という言葉を知らない状態で参加させて頂きましたが、大変わかり易く興味深い内容でした。
- ⑥PBL の基本的な方針が理解できた。
- ⑦大学での学修とは何か。ということを社会の要請、学生の現状の観点から問い直す時間となりました。

- ⑧教職実践演習との関係性についてもう少し知りたかったです。
- ⑨日頃の実践を PBL としてとらえて取組む事の大切さ。
- ⑩1 科目単位での話は、イメージができてよかったです。基礎から臨床という分離的段階型カリキュラムの改善に PBL がどのように効果をもつのか、もう少し聞きたかった。
- ⑪PBL について体系的に学び考えることができた。
- ⑫三重大の先進事例を歴史的経緯も含めて体系的かつ具体的に教えて頂けたので。成果だけでなく、実際の問題点／課題も飾らずに提示して頂けたので。
- ⑬PBL 的な授業も一部ではやっているつもりでしたが、それが PBL と言えるものかあいまいな感じをもっていました。今回 PBL の要件を示していただき自分の授業でのやられている部分や、足りない部分がはっきり分かりました。また、事例型の PBL の具体的なイメージがより明確につかめました。

3. ワークショップについて

	学 生	教 員	事務職員
①大変参考になった	4 人	5 人	0 人
②参考になった	0 人	1 人	0 人
③あまり参考にならなかった	0 人	0 人	0 人
④参考にならなかった	0 人	0 人	0 人

上記回答理由、その他意見等 （原文ママ）

- ①参加できなくなり申し訳ありません。
- ②先生方との議論が新鮮で有意義でした。
- ③今回は、大学生に向けての内容でしたが、高校生、中学生への発展も可能なのかなと感じました。
- ④楽しかった。自分授業にとり入れたいと思いましたし、大学として組織的にとりくんでいけるのではないかと思います。
- ⑤「PBL のシナリオ作成」というのはじめての方法を話をきくだけでなくじっさいにやってみることでその利点（欠点もあわせて）を体感することができた。
- ⑥頭と体を動かすことでより理解できたように思えるのと同時に、「教材側」として具体化するにはかなりスキルが必要だと感じた。
- ⑦実際にシナリオ作りをしてみると、その難しさが実感としてわかりました。教職実践演習で事前研究を行っていますが、事前準備の参考になりました。

4. 本研究会の全体評価について

	学 生	教 員	事務職員
①大変参考になった	5 人	6 人	2 人
②参考になった	2 人	2 人	0 人
③あまり参考にならなかった	0 人	0 人	0 人
④参考にならなかった	0 人	0 人	0 人

5. 今後取り扱ってほしいテーマを含め、その他意見等 （原文ママ）

- ①ありがとうございました。
- ②なんとなく、大学教職員対象は目線が大きかった。学生も対象になっているので、両方対象目線の話だとよりよいと思った。
- ③講義があったので、途中で退席させてもらいましたので、3，4は評価できませんでした。このような機会を設けて頂き、ありがとうございました。
- ④教員養成校として、“初任者が直面する課題への対応”について
- ⑤反転授業。
- ⑥大人数のAL 化の工夫について。省力化された評価のあり方、仕方について。

第8回アクティブ・ラーニング研究会 アンケート（リアクションシート）集計結果

1. 実施状況

テーマ：授業について語り合うワークショップ「探究心の火がともる授業！」

日時：平成29年11月 1日（水）14：50～16：20

場所：附属図書館PAO

参加者数：17名（学生 3名 教員14名 事務職員 0名）

2. アンケート結果

回答者数：14名（学生 2名 教員12名 事務職員 0名）

（1）. 本研究会について

	学 生	教 員	事務職員
①大変参考になった	2人	5人	0人
②参考になった	0人	7人	0人
③あまり参考にならなかった	0人	0人	0人
④参考にならなかった	0人	0人	0人

（2）. ワークショップについて

	学 生	教 員	事務職員
①大変参考になった	2人	7人	0人
②参考になった	0人	5人	0人
③あまり参考にならなかった	0人	0人	0人
④参考にならなかった	0人	0人	0人

上記回答理由、その他意見等 （原文ママ）

- ①色々な観点からの話が出されていて、対話に没入することができました。これぞ、アクティブ・ラーニングという感じがしました。
- ②大学で先生方が本気で授業をされているという一端に触れ、背筋の伸びる思いでした。
- ③率直な様々な立場の方の意見を交かんできた。
- ④試行錯誤して続けていくしかないかなと思いました。
- ⑤もう少し時間があればよかったかなと思いました。宮元先生、ご苦労様でした。皆さんの考えが広がるようコーディネートしていただきました。

- ⑥・初めての体験ということもあってとても面白かったです。
・時間が少し足らなかったです（時間を増やすか、内容を減らすか）
- ⑦授業について、教員の立場からのみならず、学生の立場からも含めて、色々皆で深く検討でき、新しい見方を知ることができました。
- ⑧自らの授業をふり返る事ができたし、思考するきっかけが得られた。
- ⑨異なる分野の先生と多くの話ことができました。異なる視点から話が伺えました。
- ⑩色々な方の悩み、気づきを知ることができ、私の探究心に火がつけました。
- ⑪拡散したまま終わってしまったので、収束していけるような導きがあると良かったのかと思うが、他の人たちがどういったことを考えているかを知るだけでも意義があった。
- ⑫ぼやきを共有できてよかった。
- ⑬授業で大切にしたいことを共有化（ある程度ではあるが）できたことは大きい。
本学の授業で大切にしたいこととして明示化できれば、授業のウリラインナップができるのではないのでしょうか。

（３）. アクティブ・ラーニング研究会に関してその他意見等 （原文ママ）

- ①自由なようにみえてテーマのある話し合いは学びが深いことに気づかされました。
- ②ありがとうございました。
- ③大変、有意義な場をつくっていただき、ありがとうございました。宮元先生、お疲れ様でした。ありがとうございました。
- ④ありがとうございました。楽しかったです。
- ⑤教員間のつながりをもたせるため、定期的にこのような機会を設けていただけると幸いです。

第9回アクティブ・ラーニング研究会 アンケート（リアクションシート）集計結果

1. 実施状況

日 時：平成29年12月 1日（金）9：00～12：10

場 所：芸術棟303号室

参加者数：23名（学生 1名 教員19名 事務職員 3名）

2. アンケート結果

回答者数：12名（学生 1名 教員11名 事務職員 0名）

（1）. 本研究会の全体の評価について

	学 生	教 員	事務職員
①大変参考になった	0人	8人	0人
②参考になった	1人	3人	0人
③あまり参考にならなかった	0人	0人	0人
④参考にならなかった	0人	0人	0人

（2）. 公開授業について

	学 生	教 員	事務職員
①大変参考になった	1人	7人	0人
②参考になった	0人	4人	0人
③あまり参考にならなかった	0人	0人	0人
④参考にならなかった	0人	0人	0人

上記回答理由、その他意見等 （原文ママ）

①事前に話を聞いた時も、おもしろそうだったと思ったが、実際に授業の空間にいることで、受講生側の気持ちを感じたり、先生の関わり、課題の流れの工夫をより考えることができた。

②即興でとまどう受講生に対する声かけや、全体のリードが参考になった。

③感覚に直接訴える内容で、構成的にきちんと順序立てられたのが面白かった。

わかりやすい進め方だった。表現が深くなってきたと思う。

④授業の雰囲気、教員と学生さんの一体感、2人の教員の連携、教材、教具の準備等、参考になりました。ありがとうございました！

⑤活動型の授業をうまく展開するためのモデルをみせてもらったように思います。

授業の組み立て方もそうですが、教員の支援のあり方が大変参考になりました。

- ⑥ワークシート(波の)などもおもしろいなと思いました。
- ⑦とても勉強になりました。いろいろなアイデアがあふれていました。
- ⑧異領域の授業を参観できたことで、視点が広がりました。

(3). 授業研究会について

	学 生	教 員	事務職員
①大変参考になった	0 人	5 人	0 人
②参考になった	1 人	2 人	0 人
③あまり参考にならなかった	0 人	0 人	0 人
④参考にならなかった	0 人	0 人	0 人

上記回答理由、その他意見等 (原文ママ)

- ①同じように見ていた他の人が、どのように感じ、思われたのか知ることができた。
受講生側の意見も聞くことができる。
- ②お互いに見合うところが、教員にとっても大切だと思う。
先生方のコミュニケーションもすばらしいと思った。
- ③授業のふり返りを感情曲線で表し発表するのはおもしろいと思った。
国語科においても有効な手法だと考える。
- ④授業の背景にある理論・計画が明確に理解でき、授業者自身の探究心に感動しました。
私自身も何かやってみたい！と思えました。
- ⑤授業について考えさせられる内容の研究会になったと思います。勉強になりました。

(4). アクティブ・ラーニング研究会についての意見等 (原文ママ)

- ①他の学生も言っていたが、この研究会が学生にとって、どんな意味があるのか(プラスはあるのか)を感じにくいかもしれない。教授の先生方だけでなく、学生が参加する意味、しやすくなるには、を考えてほしい。
- ②様々なアクティブ・ラーニングの形、方法を見ることが出来てよかったと思う。
- ③授業者と受講者の意見交流の時間を多くとり、その内容に応じて参加者も協議に加わるという流れでもよいのでは、と思います。
- ④授業改善という目的に合致していたのかどうかはよくわからないのですが、
活動→ふり返しという展開が受講生にとってとてもよい学びになっていることがよくわかりました。

4. 平成29年度 「学生による授業評価」実施結果

【平成29年度 前期】

1. 実施時期

7月3日～前期科目終了まで

(7月3日以前に授業が終了する場合は、終了前に調査票を配付し、随時実施)

2. 実施方法

(1) 授業評価調査票によるアンケート調査とする。

(2) 調査票の配付及び回収方法は、次のとおり。

- ・ 授業終了までに、授業担当教員が授業評価調査票を受講生に配付する。
- ・ 調査票の回収は、受講生の代表者が行い、回収用封筒に入れて、その場で封をして教員に渡す。
- ・ 教員が学務課教務企画チームへ封筒を提出する。

(3) 次の点を学生に周知し、実施する。

- ・ この調査は学生の授業への取組や理解度を把握し、授業の改善を行うために実施するものであること。
- ・ 成績に影響することは全くないので、授業を受けて感じたことをそのまま回答して欲しいこと。
- ・ 複数の教員が分担をしている授業は、授業科目全体としての評価をすること。教員ごとの評価をしたい場合は、自由記述欄に記入すること。
- ・ 項目⑧「安全への配慮・指導がなされていた。」の回答の有無については教員の指示に従うこと。

3. 調査結果の活用

集計結果については、教員にフィードバックし、授業の内容・方法等の改善に活かすとともに、必要に応じて教員のコメント等を付記し、個々の授業科目ごとに公表（学内限定）する。

4. 実施結果（最終集計結果）

対象科目数（A）	385
実施科目数	356
未実施科目数（B）	29
未実施科目割合（(B) ÷ (A)）	7.53%

※未実施理由

- ・ 実施を失念していた。または、返却なし。（27科目）
- ・ アンケート調査を配付する前に終了していた。（2科目）

【平成29年度 後期「学生による授業評価」実施結果】

1. 実施時期

1月9日～後期科目終了まで

(1月9日以前に授業が終了する場合は、終了前に調査票を配付し、随時実施)

2. 実施方法

(1) 授業評価調査票によるアンケート調査とする。

(2) 調査票の配付及び回収方法は、次のとおり。

- ・ 授業終了までに、授業担当教員が授業評価調査票を受講生に配付する。
- ・ 調査票の回収は、受講生の代表者が行い、回収用封筒に入れて、その場で封をして教員に渡す。
- ・ 教員が学務課教務企画チームへ封筒を提出する。

(3) 次の点を学生に周知し、実施する。

- ・ この調査は学生の授業への取組や理解度を把握し、授業の改善を行うために実施するものであること。
- ・ 成績に影響することは全くないので、授業を受けて感じたことをそのまま回答して欲しいこと。
- ・ 複数の教員が分担をしている授業は、授業科目全体としての評価をすること。教員ごとの評価をしたい場合は、自由記述欄に記入すること。
- ・ 項目⑧「安全への配慮・指導がなされていた。」の回答の有無については教員の指示に従うこと。

3. 調査結果の活用

集計結果については、教員にフィードバックし、授業の内容・方法等の改善に活かすとともに、必要に応じて教員のコメント等を付記し、個々の授業科目ごとに公表（学内限定）する。

4. 実施結果（最終集計結果）

対象科目数（A）	366
実施科目数	345
未実施科目数（B）	21
未実施科目割合（(B) ÷ (A)）	5.73 %

※未実施理由

- ・ 実施を失念していた。または、返却なし。（10科目）
- ・ アンケート調査を配付する前に終了していた。（11科目）

5. H29年度 他大学等のFD研究会等参加状況一覧

No.	所属	役職	氏名	用務内容	日程	用務先
1	人間発達教育専攻 教育コミュニケーション コース	教授	須田 康之	関西地区FD連絡協議会第10回 総会	2017/5/20(土)	関西地区FD連絡 協議会 (大阪大学)
2	教育実践高度化専攻 生徒指導実践開発コー ス	教授	山中 一英	関西地区FD連絡協議会第10回 総会	2017/5/20(土)	関西地区FD連絡 協議会 (大阪大学)
3	人間発達教育専攻 学校心理・学校健康教 育・発達支援コース	准教授	岡本 希	第7回C-Learningセミナー「授業 カイゼンとFD」	2017/7/25(火)	グランフロント大阪
4	教育実践高度化専攻 授業実践開発コース	教授	黒岩 督	分野連携グループによるアクティ ブ・ラーニング対話集会	2017/12/16(土)	早稲田大学
5	教育実践高度化専攻 生徒指導実践開発コー ス	教授	山中 一英	産業能率大学 第3回 公開FD研 修会	2018/2/9(金)	産業能率大学

6. 平成29年度 教職大学院授業改善・FD委員会 活動実績

教職大学院授業改善・FD委員会

活動領域	No	活動項目	種類	活動内容	達成基準	困難度	実績（見込み）と評価
1 研修 会等 によるFD	1	他大学FD活動の 情報収集	継続	・他大学のFD協議会やFDシン ポジウムから情報収集。	年間2回以上	B	静岡大学、東京学芸大学、早稲田 大学、関西地区のFD研究会の5 回に参加したので、 評価はA 。
	2	教員向けFDセミ ナーの開催	継続	・専任教員会議でのFD活動取組 状況研修 ・全学FD委員会の活動と連携。 (ベストクラス等への参画)	年間5回以上。各種活 動への参加者のべ150 人以上。	B	第1回32名、第2回13名（学生 94名）、第3回22名の合計161 名参加。人数が上回ったので、回 数は3回だが、 B評価 とした。
	3	eポートフォリオ の活用促進	継続	・eポートフォリオの活用した学 生との双方向のやり取りの実現。	新入学生に対する研修 会実施。	B	新入学生に対する研修会実施実 施したので B評価 とした。
2 授 業 評 価 に よ るFD	4	授業評価結果と改 善案の学生報告	充実	・授業評価結果と、改善方策を学 生に提示。	学生・教員参加40名以 上。	B	学生・教員参加107名であったの で A評価 。
	5	「共通基礎科目」 と「専門科目」の 授業評価実施（前 期・後期）	継続	・28年度に改訂した評価ソフト を活用して、「教育課程」「共通基 礎科目」「専門科目」について、 学生からの授業評価を実施。	外部評価委員会・教員 会議で評価結果報告。 担当教員に結果開示。 学生回収率90%以上。	B	授業評価を実施し、外部評価委員 会・教員会議で評価結果報告。担 当教員に結果開示。学生回収率 90%以上で 評価はA 。
	6	「実習科目」「課題 研究」の授業評価 実施 (後期)	継続	・28年度に改訂した評価ソフト を活用して、「実習科目」「課題研 究」について、学生の授業評価、 実習校評価の多面評価実施。		B	実習校からの回収率が悪く、5割 を下回るので、 評価はC 。
	7	授業評価システム の改善	継続	・授業評価システムを学部や修士 に合わせる簡素化の改善検討。	年度末までに改善案作 成。	A	改善案の素案はあるが、具体化し ていないので、 評価はB 。
	8	修了生に対する教 育成果調査の実施	充実	・修了生に対する教育成果調査シ ステムの実施。	調査を実施。まとめ報 告。	B	回収率は例年に比べて高率で5 割を超えたので、 評価はA 。
3 外 の 風 に よる FD	9	教育実践高度化専 攻の授業公開	継続	・公開授業やゼミ公開等実施。(年 間2回) ・実習校との意見交換実施。	5月、10月：公開授業。 3月：連携協力校会合。	B	5月13日、10月7日に公開授業 実施。3月10日に連携協力校会 合予定のため、 評価はB 。
	10	各種媒体で、教職 大学院情報の露出	継続	・新聞や専門誌、また学会等のパ ネルで、教職大学院情報を積極的 に発信。	3回以上。	A	毎日新聞と神戸新聞に2回露出 したので、 評価はA 。
	11	授業公開の推進	継続	・学外者の授業参観・視察の促進。	外部の授業参観10科 目以上。	A	外部からの参観者は7科目のた め、 評価はB 。
	12	外部評価委員会の 実施	継続	外部評価委員会の実施による意 見収集	3月に実施	B	3月10日に連携協力校会合予定 のため、 評価はB 。

(註1) 困難度 A：かなり困難で格別の努力が必要、B：困難でかなりの努力が必要、C：努力が必要

(註2) 上記表中の網掛け部分は、教育課程・授業評価に直接関連する項目。＊は現段階では不明のもの。

(註3) 達成度は下記のマトリクスで評価する。

		達成基準を満たした程度		
		上回る	ほぼ達成	下回る
困難度	A格別の努力	S	A	B
	Bかなりの努力	A	B	C
	C努力	B	C	D

Ⅲ 資 料

本学におけるFDの定義について

兵庫教育大学におけるFDとは、本学のミッション及びビジョンを実現するために、大学院・学部におけるカリキュラムや授業についての内容・方法・評価等に関して、教員と事務職員が協働し、学生の参画を得て行う、教育の質保証をめざすあらゆる取組のことである。

【定義のポイント】

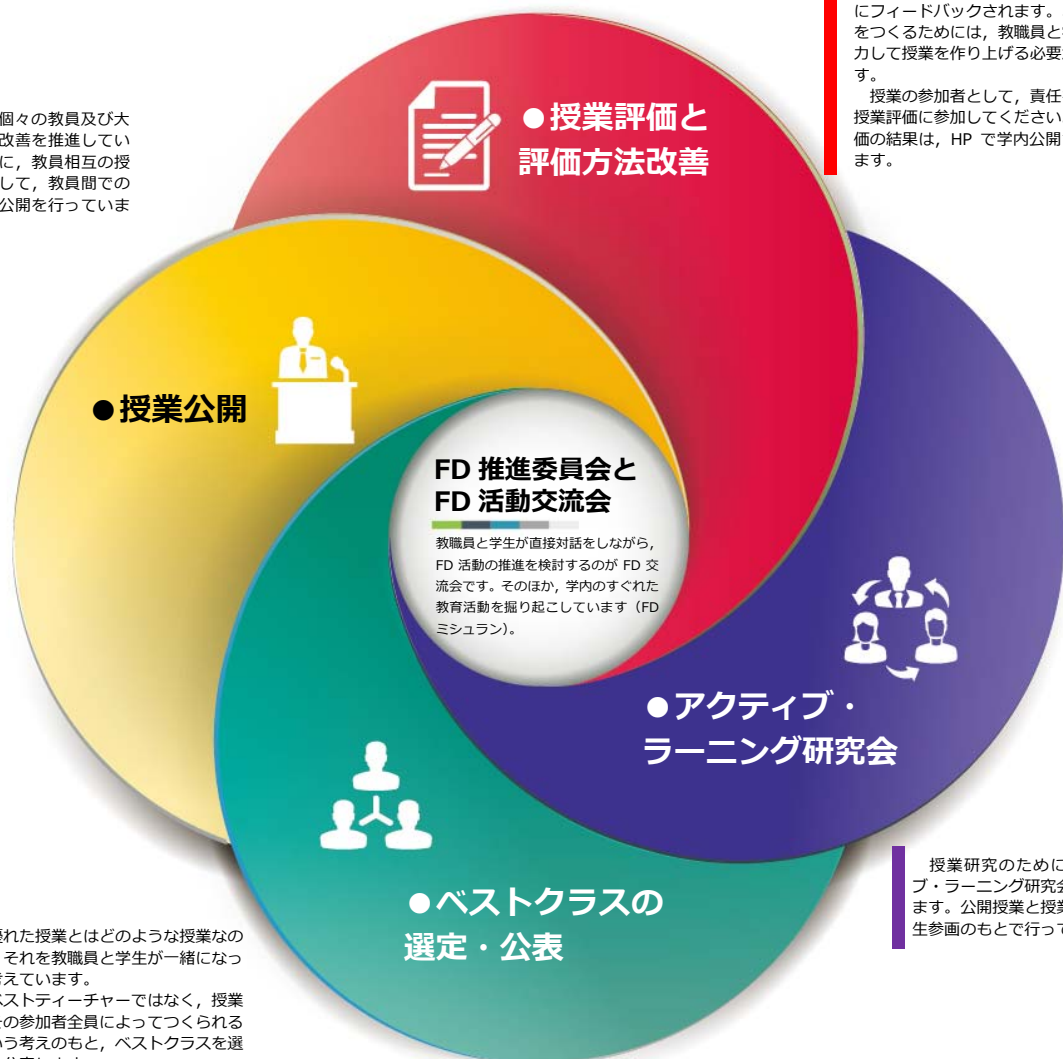
- (1) 本学のミッション及びビジョンを実現すること (What for)
- (2) 全学で日常的に行われる全ての教育改善活動や学修支援活動をFD活動と認識すること (What)
- (3) 教員と事務職員が協働し、学生の参画を推進すること (Who)
- (4) 教育の質保証及び教育力向上をめざすあらゆる取組の妥当性、有効性について継続的に検証を行い、更なる改善・充実を組織的に図ること (How)

兵庫教育大学における FD 推進活動への取り組み

FD とは、ファカルティ・ディベロップメントの略で、教育の質保証をめざす取り組みのことです。

本学における FD とは、本学のミッション及びビジョンを実現するために、大学院・学部におけるカリキュラムや授業についての内容・方法・評価等に関して、教員と事務職員が協働し、学生の参画を得て行う、教育の質保証をめざすあらゆる取り組みを指しています。

本学では、個々の教員及び大学全体の授業改善を推進していくことを目的に、教員相互の授業研究の場として、教員間での日常的な授業公開を行っています。



(平成16年4月1日規程第17号)

改正	平成17年3月31日	平成17年9月6日
	平成18年3月8日	平成18年7月12日
	平成18年12月6日	平成19年3月14日
	平成20年1月16日	平成20年3月11日
	平成23年3月14日	平成24年3月26日
	平成25年4月2日	平成28年1月13日
	平成29年3月14日	平成29年6月30日

(設置)

第1条 国立大学法人兵庫教育大学（以下「本学」という。）におけるファカルティ・ディベロップメント（教育の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究。以下「FD」という。）の推進を図るため、国立大学法人兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(構成)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 副学長のうち学長が指名した者 1人
- (2) 教育支援担当の学長特別補佐
- (3) 次のア、イ及びウの区分により各専攻からの推薦に基づき学長が指名した者
 - ア 人間発達教育専攻又は特別支援教育専攻に所属する教授、准教授、講師又は助教 2人
 - イ 教科教育実践開発専攻に所属する教授、准教授、講師又は助教 3人
 - ウ 教育実践高度化専攻に所属する教授、准教授、講師又は助教 1人
- (4) 学長が指名した者

2 前項第3号及び第4号に規定する委員の任期は、2年とする。ただし、欠員を生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の任期の残余の期間とする。

3 前項の規定による委員は、再任されることができる。

(委員長及び副委員長)

第3条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長は、前条第1項第2号に規定する学長特別補佐をもって充て、副委員長は、委員の互選によって定める。

2 委員長は、委員会を招集し、議長となる。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、委員長の職務を代行する。

(所掌事項)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる事項を企画し、及び実施する。

- (1) FDに係る調査・研究に関すること。
- (2) 教育の内容及び方法を改善するための支援に関すること。
- (3) 教育改善に係る評価に関すること。
- (4) その他FDに関すること。

(議事)

第5条 委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ議事を開き、議決することができない。

2 委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(代理出席)

第5条の2 委員会は、第2条第1項第3号に規定する委員が事故その他やむを得ない理由により委員会に出席できないときは、当該委員が所属する専攻の教授、准教授、講師又は助教を代理者として出席させることができる。

2 前項の規定により代理者を出席させた場合は、当該代理者を委員とみなす。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことがで

きる。

(専門委員会等)

第7条 委員会が必要と認めるときは、専門的な事項を調査検討するため、専門委員会等を置くことができる。

(事務)

第8条 委員会に関する事務は、教育研究支援部学務課が処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年9月6日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年7月12日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

1 この規程は、平成19年4月1日から施行する。

2 この規程施行後第2条第1項第2号の規定に基づき最初に指名された委員の任期は、同条第2項の規定にかかわらず、学長が定める。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

1 この規程は、平成23年4月1日から施行する。

2 この規程施行後第2条第1項第3号及び第4号の規定に基づき最初に指名された委員の任期は、同条第2項の規定にかかわらず平成24年3月31日までとする。

附 則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年4月2日から施行し、平成25年4月1日から適用する。

附 則

1 この規程は、平成28年4月1日から施行する。

2 この規程施行後第2条第1項第3号及び第4号の規定に基づき最初に指名された委員の任期は、同条第2項の規定にかかわらず、学長が定める。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成29年7月1日から施行する。

平成 21 年 11 月 6 日
学 長 裁 定
改正 平成 26 年 6 月 2 日

授業公開の実施に関する申合せ

1 授業公開の目的

本学における教員相互の「授業研究」の場として設定し、個々の教員及び大学全体の授業改善を推進していくことを目的とする。

2 対象授業

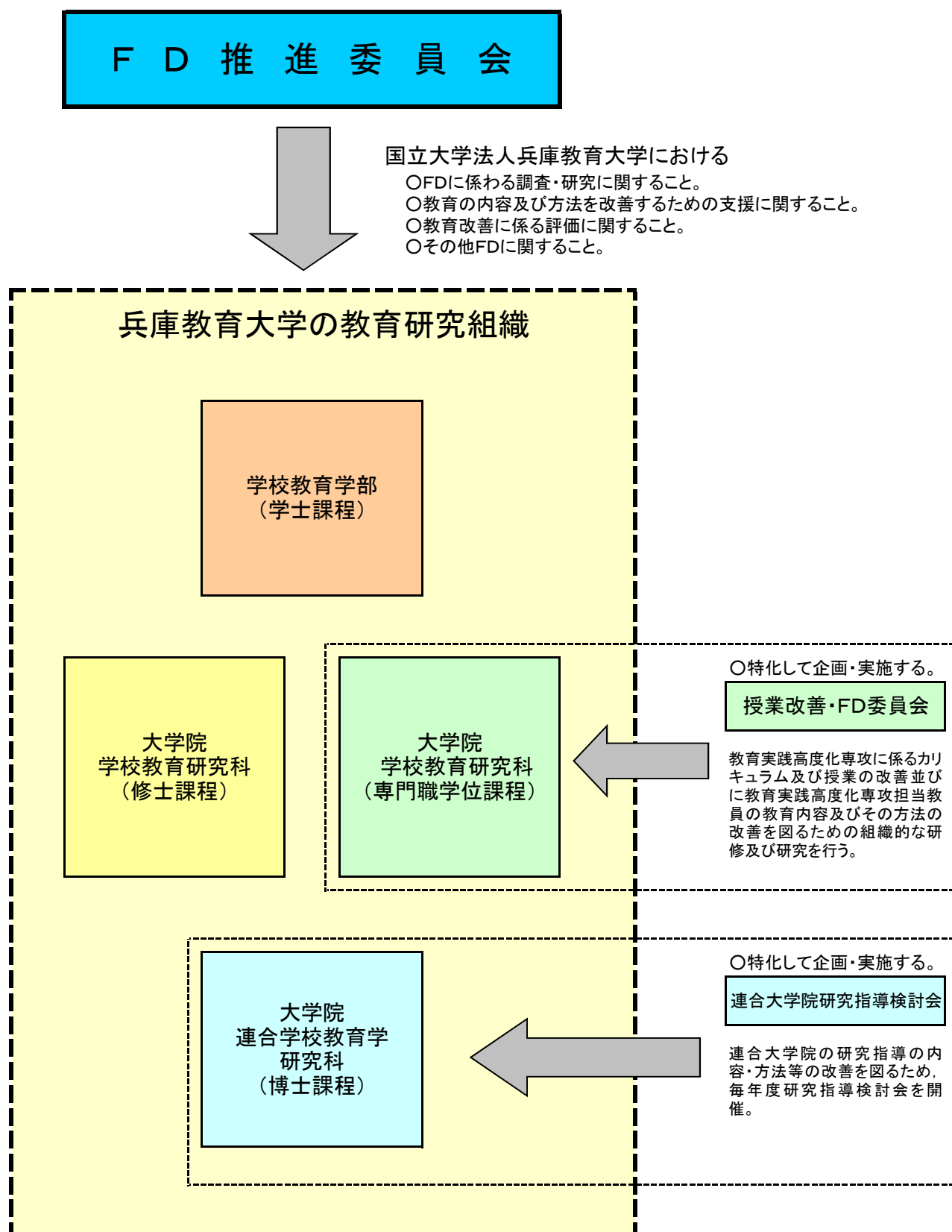
原則として、授業は全面公開とする。ただし、授業担当教員が公開することが適切でないと判断した授業については除外する。

3 公開期間

各教員においては、日常的に「授業研究」を行い、授業の改善に努めているところであるが、このような大学組織としての「授業研究」をさらに推進するため、個々の授業科目において授業公開を行うことができるものとする。その場合、授業公開に参加を希望する教職員は、当該授業担当教員に対し事前に了承を得るものとする。ただし、日常の教育活動を保証するため、次の期間については公開の対象としない。

- (1) 定期試験の期間
- (2) 学期当初の期間（1～2週間）
- (3) 実地教育等に関わる期間

本学におけるFD推進委員会と教育研究組織との関連図



ファカルティ・ディベロップメント推進委員会委員名簿

平成29年4月1日現在

所 属 等	職 名	氏 名	任 期	備 考
—	副学長	名須川知子	—	第1号委員
—	学長特別補佐 (教育支援担当)	須田 康之	—	委員長 第2号委員
人間発達教育専攻 幼年教育・発達支援コース	助 教	加納 史章	H29. 4. 1 ～H31. 3. 31	第3号委員
特別支援教育専攻 障害科学コース	講 師	丹所 忍	H29. 4. 1 ～H30. 3. 31	〃
教科教育実践開発専攻 言語系教育コース	教 授	菅井 三実	H28. 4. 1 ～H30. 3. 31	〃
教科教育実践開発専攻 理数系教育コース	准教授	小川 聖雄	H28. 4. 1 ～H30. 3. 31	〃
教科教育実践開発専攻 生活・健康・情報系教育コース	准教授	掛川 淳一	H29. 4. 1 ～H31. 3. 31	〃
教育実践高度化専攻 小学校教員養成特別コース	准教授	筒井 茂喜	H29. 4. 1 ～H31. 3. 31	〃
教育実践高度化専攻 生徒指導実践開発コース	教 授	山中 一英	H28. 4. 1 ～H30. 3. 31	第4号委員

FD推進委員会 年度計画検討WG名簿

平成29年7月1日現在

所 属 等	職 名	氏 名	任 期 (FD推進委員会)	備 考
人間発達教育専攻 教育コミュニケーション コース	学長特別補佐 (教育支援担当)	須田 康之	—	FD推進委員会 委員長
教育実践高度化専攻 生徒指導実践開発コース	教 授	山中 一英	H28. 4. 1 ～H30. 3. 31	FD推進委員会 副委員長
教科教育実践開発専攻 言語系教育コース	教 授	菅井 三実	H28. 4. 1 ～H30. 3. 31	
教科教育実践開発専攻 生活・健康・情報系教育 コース	准教授	掛川 淳一	H29. 4. 1 ～H31. 3. 31	
教育実践高度化専攻 小学校教員養成特別 コース	准教授	筒井 茂喜	H29. 4. 1 ～H31. 3. 31	
教育研究支援部 学務課	副課長	藤木 裕一		